

## 国外における一般市民への医学情報提供の現状 文献的考察 医学図書館による働きかけ

若杉 亜矢、神山 貴子、山室 眞知子、杉本 節子

### I. はじめに

国外、特に米国では一般市民が健康情報を知りたいと思ったら、公共図書館へ行くのが常識である。本国では、病院や医科大学においても患者図書室の社会的認識がやっと高まりつつある。本研究は「国外における一般市民への医学情報提供の現状」を主題として、医学図書館による働きかけに重点を置いて文献的調査を行い、米国における健康情報提供の広まりを検討した。

### II. 健康情報の広まり

一般市民への医学情報の提供は、1970年代に米国で医療の消費者つまり一般市民への情報提供が必要であるという認識が高まったことに端を発している。1973年には米国病院協会が「患者は医者から診断や治療・予後に関する最新のわかりやすい情報を得る権利がある」という患者の権利をうたい<sup>1)</sup>、「消費者健康情報(Consumer Health Information: CHI)」の社会的認知を広めた。

その後、CHIに対するニーズはますます高まり、米国国立医学図書館(以下NLM)は1997年にMEDLINEを無料公開した。当時のゴア副大統領は、その最初のアクセス者として「これまでわれわれが長年やってきたどんなことより、これでアメリカの医療の質は大きく改革、

改善される。私は本当にそう信じる」と言葉を述べた<sup>2)</sup>。実際、米国におけるCHIのニーズはその後高まり、情報を提供する側の専門性も求められるようになった。

### III. 求められる専門性

ペンシルバニア州にあるピッツバーグ大学図書館情報学大学院では、CHI専門の図書館員を養成するためのカリキュラムがある<sup>3, 4)</sup>。そこで求められるCHI図書館員の能力とは、下記の通りである。

- ・CHI図書館の運営
- ・CHIニーズに対応できるサービス精神
- ・広範囲なCHIを利用者に提供できる
- ・CHIの擁護 (information advocate)
- ・利用者の要求にタイムリーに、そして秘密を守っていく環境を作り出す

同大学では、現役の学生から、現職の司書への教育にも力を入れており、現職司書のプログラムも充実している。図書館からの求職もダイレクトに行われており、まさに即戦力になるための訓練校といったところだろうか。

### IV. 公共図書館への働きかけ

MEDLINEが無料公開された翌年、公共図書館を対象としたパイロットプロジェクトが行われた<sup>5)</sup>。このプロジェクトは、CHIを提供する公共図書館の役割を学ぶためにNLMが行った調査で、公共図書館の現場へ医学図書館員が赴き、健康情報に関する指導や、医学図書館の見学会という活動を経て、各公共図書館が健康情

わかすぎ あや : 松下記念病院 図書センター  
 かみやま たかこ : 京都桂病院 図書室  
 やまむろ まちこ : 京都南病院 図書室  
 すぎもと せつこ : 相愛大学 人文学部

報提供のためにどのような働きかけをしていくか調査を行った。

一方、医学図書館と患者教育センターが共同して、積極的に活動を行っている図書館もあった。ニュージャージー州にあるThe Reuben L. Sharp Health Sciences Library at Cooper Hospital/University Medical Centerは消費者健康教育センターと協定を組み、図書館と教育センターのサインを統一したり、月に一度職員と患者の両方が興味を引くようなサービスの提案をしている<sup>6)</sup>。教育センターの医療スタッフは、病院や病気に関する新しい情報などを図書館員に教えてくれたり、医療職としてのアドバイスができる。

同じようにランゲロス回復期教育・情報センターも医学分野の情報提供を行う専門の医学図書館員が1名配置されており、患者の支援を行っている<sup>7)</sup>。

2002年には公共図書館向けの健康情報サービスについてのガイドブックが相次いで発刊され<sup>8,9)</sup>、公共図書館のCHIサービスはマニュアル化されたと言っても過言ではないだろう。

## V. 考察

消費者健康情報とは、①一般の人々のために書かれた健康・医学書であり、②専門用語が使われておらず、③一般的に入手が可能な情報のことを指す。利用者は病気の人々やその家族、健康な人々など、全ての人々がサービスの対象者である。では、なぜ全ての人々がサービスの対象者であるのに、本国の一般市民への医学情報提供が米国に比べて大幅な遅れをとっているのか。3つの要素が考えられる。

### 1. 政府機関の対応

米国では、政府機関を筆頭にさまざまな媒体を駆使して質の高い医療、健康情報を一般市民に伝達しようとしている。そのことによって国内の患者が減り、医療費の減少にもなると考えたのである。また、米国では数多くの助成金制度があり、CHI提供に関する補助が盛んに行

われている。その制度は図書館単位での申請が可能であるため<sup>7)</sup>、各図書館が特色を生かしたCHI提供を行うことができる。

### 2. 医学図書館の対応

NLMはMEDLINEの一般公開やさまざまなプロジェクトを通して、公共図書館との連携をはかってきた。その結果、公共図書館向けのガイドブックが作成され、一般市民がCHIを入手するために公共図書館を利用するのが当たり前になった。これらの事例から、今日のようなCHIサービスの広まりは、医学図書館側からの働きかけが重要な役割を占めていると考えられる。一般的に公共図書館がCHIの提供を始めようとする際、時間やお金がかかることを懸念するという<sup>9)</sup>。しかし、そこで医学図書館との連携や、医学図書館員の指導があったため、難しいサービスではないことが判明し、多くの利用者を生み出している。

### 3. 利用者のニーズ

米国では利用者からのニーズも高く、患者や患者家族からの寄付金で図書館を運営している病院もある。そもそも米国のCHIの発端は「患者の権利」からであり、受け身の医療ではなく、自身で選択するという意識からスタートした。本国ではほんの数年前より、セカンドオピニオンの導入など、自身で医療を選択できる制度がはじまったばかりである。その点においても米国との意識の違いが露呈する。

## VI. まとめ

CHIサービスにおける医学図書館による公共図書館への指導や連携の事例を考察した。その結果、米国のCHIサービスがここまで広まった大きな3つの要因が考えられた。

1. 政府政策のひとつとしてCHIがある
2. 医学図書館からの積極的な働きかけ
3. ニーズの高さ

近年、日本の病院にも「患者図書室」が数多く設けられている。しかし、その実態はさまざまであり、医学図書館員の意見が反映されて

いないところも数多くあるという。一方で医学図書館と公共図書館の連携の事例も報告されるようになってきた。誰のための情報提供かということを最優先に考え、医学情報の提供を当たり前のものとして長年取り組んでいる欧米に見習うべきである。

(野添篤毅監訳. 公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド. 東京: 日本図書館協会; 2007.)

#### 参考文献

- 1) American Hospital Association. A patient's bill of right. Chicago: The Association; 1975.
- 2) 増田 徹. 電子資料解題 PubMed 1. 病院図書館. 2005 ; 24 : 186-7.
- 3) Detlefsen EG, Epstein BA, Mickelson P et al. Transforming the present--discovering the future: the University of Pittsburgh's NLM grant on education and training of health sciences librarians. Bull Med Libr Assoc. 1996; 84: 524-33.
- 4) Detlefsen EG. 北米における消費者健康情報サービスの現状. Detlefsen EG 博士講演会 (東京都); 2007年10月18日.
- 5) Wood FB, Lyon B, Schell MB et al. Public library consumer health information pilot project: results of a National Library of Medicine evaluation. Bull Med Libr Assoc. 2000; 88: 314-22.
- 6) Calabretta N. The hospital library as provider of consumer health information. Med Ref Serv Q. 1996; 15: 13-22.
- 7) 杉江典子. 米国ニューヨーク市クイーンズ区公共図書館における消費者健康情報サービス提供. 医学図書館. 2003 ; 50 : 260-7.
- 8) Baker LM, Manbeck V. Consumer health information for public librarians. Lanham: Scarecrow Pr; 2002.
- 9) Kenyon A, Casini BP. The public librarian's guide to providing consumer health information. Chicago: Amer Library Assn; 2002.